

想いを歌に乗せて

校 長 武井 正明

各学年リハが終わっての、終学活前の練習から…。

2年4組「今」…聴いて聴いて！という雰囲気的女子。これは聴かんばだ。推進委員の彼女がタブレットを使ってポイントを押さえて丁寧に説明している。それを受けての合唱。聴いてビックリ!! 前半はゆったりしっとり、それが後半に行くと、畳みかけるようにリズムカルに、ラストは手拍子、なんて曲だ。

調べてみた。何と作詞は中学生。♪手からはなれた風船と なつかしい僕が重なった～ あんなに素晴らしい詞を中学生が作ったのか…。作曲は「時の旅人」を手掛けた橋本祥路。これはもう楽しみだ…。

3年1組「虹」言わずと知れた、天才森山直太朗の名曲。♪僕らの出逢いを 誰かが別れと呼んだ～ 今回の学年リハは不本意な出来、女子の伸びやかな高音は光った。

ここで男子が緊急ミーティング。肝腎な場面での集中力の欠如を、担任の野俣先生が逃さず指摘。これからいよいよ勝負の冬を迎える前に、皆でいいものを作りたいという、学級担任の熱い気持ちが伝わってくる。

「虹」は私の大好きな曲。ミーティングの合間に、ピアノをリクエストして弾いてもらおう。この出だしと、いつまでも続くようなラストの旋律。しかし上手く弾くなあ。最初の一音の小さな響きだけで、感動がじわっと込み上げてくる。

うっとり聴いていたら、女子がピアノに合わせて声を出した。私も思わず、一緒に男声もどきの声で歌い出す。そして何となく一瞬ハモった！と思った瞬間。これが気持ちいい。復活した男声と女声のハーモニーが楽しみです。



歌ってのはね。ヘタでもいいと思うのです。

私が今でも心に残っている歌は…

親父が一杯入って、上機嫌で歌う千昌夫の「北国の春」、娘が眼を大きく開いて、一生懸命歌う「カントリーロード」…そう、上手さではなく「想い」が心を揺さぶる。

純粹に、歌詞に想いを乗せて、気持ちよく歌うこと。それでいい。

もう技巧は要らない。一生懸命を聴かせてほしい。君たちの想い、それを待っている。

